様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　５ 月 ２４ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０２５９４

研究課題名（和文）パスカル『パンセ』の人間学――文献学的研究ならびにモンテーニュ思想との比較研究

研究課題名（英文）The anthropology of Pascal's "Pensees": the philological approach and the comparison of Pascalian thought with that of Montaigne

研究代表者
山上　浩嗣（YAMAJO, Hirotsugu）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：４０３１３１７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：パスカル人間学の文献学的研究とパスカルとモンテーニュの影響関係の研究に従事した。前者の目的のために、第一に、『パンセ』の独自訳の作成に取り組み、３分の２程度を仕上げた。第二に、論文「パスカルにおける「見かけ」の批判」とそのフランス語版を発表した。また、後者の目的のために、両者の「気晴らし」観念および「見かけ」観念に関する比較を主題とした論文をそれぞれ日仏両語で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は主として、①パスカルとモンテーニュの思想を作品に基づいて正確に解釈すること、②両者の思想の影響関係をその継承と反発の両側面において客観的に検証することを目的としている。①の成果は『パンセ』の翻訳およびモンテーニュ思想の平易な解説という形で研究者ではない一般読者にも還元する。②の成果は専門家の査読を経た論文の形で学術誌に掲載する。本研究の成果は高い社会的価値とともに学術的価値をもつと信じる。

研究成果の概要（英文）：For the philological research of Pascalian anthropology, I first undertook the translation of the "Pensees" and then published the article entitled "The critique of appearance by Pascal" in Japanese and in French. For the study of Montaigne's influence on Pascal's thought, I published the article on the concept of "divertissement" and that on the concept of "appearance" of the two authors in Japanese and in French.

研究分野：人文学

キーワード：パスカル　『パンセ』　モンテーニュ　『エセー』　翻訳　比較研究　見かけ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

ブレーズ・パスカル（1623-1662 年）の活動は多分野に及ぶ。未完の著作「キリスト教護教論」の準備メモを収める遺稿集『パンセ』には、犀利かつ具体的な人間観察、神学的考察、哲学批判、政治論・共同体論、そして修辞論・文体論までもが含まれている。本研究課題の言う「人間学」とは、このような多様な活動の総体を指示する（パスカルは『パンセ』の一断章で、自身の目標を若年時に専心した科学研究と対置して「人間の研究」と位置づけている）。

申請者はかつて、彼の人間学において人間の此岸的生のもつ意義について研究を行い、2010 年２月、その成果によってパリ=ソルボンヌ大学から博士号を授与された（研究業績 33）。本論においてはとりわけ、パスカルの「身体」（corps）の観念の両義性に注目し、パスカルの考える「信」の状態が、教義上は低い価値を与えられる「身体」の存在を必要不可欠なものとして要請するという逆説を、彼の枢要な思想をなす諸概念（「愛」「習慣」「直感」「賭け」など）の検討によって説明しようと試みた。この研究によって申請者は、原罪による人間の本性の堕落、救済の他力性を強調するパスカルの悲観主義的側面とは異なる、いわばユマニスト的な一面に光を当てることができたと考えている。「賭け」の断章などにうかがわれる彼岸への志向性の一方で、パスカルは人間の「身体」を伴う地上の生の理想のあり方を説いていると言えるのである。

しかし、長年に及ぶ上記研究の過程で、申請者が今後取り組むべき課題も明らかになってきた。世界のパスカル研究はこの約二十年の間に飛躍的な進歩を遂げた。そのような新たな研究の主たる方向性は、(1) パスカル人間学の総合的再構築のための『パンセ』草稿資料の活用（L. Susini, *L'Écriture de Pascal. La lumière et le feu. La « vraie éloquence » à l'œuvre dans les* Pensées, 2008 ; D. Descotes et G. Proust, *L'Édition éléctronique des Pensées de Blaise Pascal*, site internet créé en 2011）、(2) パスカルの思想とルネサンス思想との関連の探究（H. Michon, *L'Ordre du cœur. Philosophie, théologie et mystique dans les* Pensées *de Pascal*, 1996）、(3) ジャンセニスム運動およびポール=ロワイヤルの歴史と思想の研究（*Dictionnaire de Port-Royal*, élaboré sous la direction de J. Lesaulnier et A. McKenna, 2004 ; K. Misono, *Écrire contre le jansénisme. Léonard de Marandé polémiste vulgarisateur*, 2012）、にある。申請者は、自身の研究の過程でこうした新たな動向の成果から多大な恩恵を得たが、それらの研究が扱う問題系にみずから積極的に取り組むことはできなかった。

以上の反省に立ち、申請者は過去６年間にわたって、科学研究費補助金・基盤(C)を得て、研究課題「パスカルの人間学およびその起源と影響の研究」（2011～2013 年度）および研究課題「パスカルとモンテーニュの人間学および『ポール=ロワイヤル論理学』の研究」（2014～2016 年度）に取り組んできた。

２．研究の目的

本研究課題「パスカル『パンセ』の人間学――文献学的研究ならびにモンテーニュ思想との比較研究」は、上の研究を発展的に継承するものであり、その方向性は、主として次の２つに求められる。すなわち、(1) パスカルの人間学を、『パンセ』の草稿資料も用いて、彼自身のテクストに即して総合的に考究すること、(2) パスカルの人間学の「起源」の局面を、とりわけモンテーニュからの影響を通じて検討すること、である。本方針のもと、以下の研究に集中的に取り組む。

<u>(1) パスカル人間学の文献学的研究</u>

パスカル人間学全体に関わる申請者独自の見解は、前掲の博士論文、ならびにその日本語版（『パスカルと身体の生』、大阪大学出版会、336p.、2014 年９月）において提示できたと考えている。また、この成果に基づいて、このたび一般読者向けに『パンセ』の主要主題について解説する入門書『パスカル『パンセ』を楽しむ――名句案内 40 章』を上梓することになった（講談社学術文庫、272p.、2016 年 11 月）。そこで、本研究課題においては、『パンセ』の細部に至るまでのより精緻な読解に取り組む。とりわけ、すべての断章を草稿資料（パスカルの手稿原稿と写本）を参照しながら再読し、『パンセ』全体の新たな日本語訳に取り組む（すでにある出版社から正式な依頼を受けている）。

<u>(2) パスカルとモンテーニュの影響関係の研究</u>

パスカル『パンセ』の人間論全体において、モンテーニュから多大な影響を受けている。その影響は単なる「継承」ではなく、パスカルの「反発」をも喚起し、それゆえ両者の思想的対決はきわめて興味深い様相を呈している。にもかかわらず、両者の思想の比較研究は進展しているとは言いがたい（Léon Brunschvicg, *Descartes et Pascal lecteurs de Montaigne*, 1942 ; 前田陽一『パスカルとモンテーニュとのキリスト教弁証論』1949 年 ; Bernard Croquette, *Pascal et Montaigne*, 1974、

以来注目すべき論考はきわめて少数にとどまる）。ルネサンス思想のパスカルによる受容についての研究が注目を集める現状において（H. Michon 前掲書）、この課題の重要性については言をまたない。申請者はこれまで、「人間の尊厳」、動物観、「気晴らし」という主題に関して、両者の思想の共通点と差異を考察してきた。今後はこれらの成果をふまえて、①死生観（信仰論）、②認識論、③政治論、④修辞論、⑤学問・知識論の５つの領域をめぐる２人の思想の影響関係について、より体系的に考察を進める。将来は成果を『モンテーニュからパスカルへ――継承と反発』（仮題）という一書にまとめたい。

３．研究の方法

本研究課題を構成する２つの主要素に即して、全体的な研究の方針と方法について述べる。

(1) パスカル人間学の文献学的研究

『パンセ』は、長短さまざまで神学・哲学・文学・政治学のいずれにも分類しがたい多様な分野に関連する諸断章からなる。本書の解釈に際し、これまでは碩学の校訂を経た有力な刊本に依拠することが通例であった（ブランシュヴィック、ラフュマ、セリエ、ルゲルン、フェレロルなどによる諸版）。一方、1980 年代に前田陽一によって開始された『パンセ』草稿資料に基づく各断章の生成研究も、現在に至るまで複数の研究者（支倉崇晴、D・デコット、湟野正満ら）によって引き継がれ、数多くの新知見をもたらしてきた。この手法の重要性は、草稿資料を徹底的に活用した L・シュジーニの快著『パスカルのエクリチュール』（L. Susini 前掲書）の刊行（2006 年）によっていっそう認知された。今では「まともなパスカル研究で草稿に一切言及しないことなど許されない」（D・デコット）のである。そこで申請者は、この手法を適用して、これまで親しんできた『パンセ』の諸断章の再解釈に挑みたい。パスカルの手稿の読解は容易ではないが（申請者は東京大学大学院の支倉崇晴教授［当時］の授業でこれを実践した経験がある）、先達の努力により効率的な方法が確立されつつあり、数年後には D・デコットの研究チームが全断章の手稿のデジタルデータベース化（D. Descotes, G. Proust 前掲サイト）を完成し、各断章の成立過程をパソコン上で復元できるようになる。主要な断章の加筆部分、削除部分、段落ごとの執筆順が明らかになるだけでも全体の解釈を大きく左右することがある。

そして、この作業の成果は近年中に『パンセ』新訳の形で世に問うつもりである。2015-2016 年に塩川徹也訳『パンセ』が岩波文庫より刊行されたが、以下の方針によって塩川訳を含めた数々の既訳との差異化を図る。①セリエ版（*Pensées*, in Pascal, *Les Provinciales, Pensées et opuscules divers*, textes édités par G. Ferreyrolles et Ph. Sellier, Paris, Librairie Générale Française, « La Pochothèque », 2004）を底本とする。②多数の箇所において、既訳とは異なった解釈を提示する。③文献学的な注はできるだけ割愛し、解釈上の注を付す。④解説書（『パスカル『パンセ』を楽しむ―名句案内 40 章』前掲書）を別途刊行済みなので、翻訳書のページ数はなるべく抑制し、コンパクトな一冊本にする。

(2) パスカルとモンテーニュの影響関係の研究

パスカル人間学の起源を探求するために、申請者はとくに、モンテーニュ思想からの影響に注目している。B・クロケットの調査によると、『パンセ』のなかで、語彙や発想の点でモンテーニュ『エセー』からの影響が認められる箇所は、のべ 238 箇所にのぼる（B. Croquette 前掲書）。また、パスカルが『キリスト教護教論』構想の過程で直接親しんだ主な書物は、聖書のほか、アウグスティヌス、エピクテートス、ジャンセニウス、モンテーニュ、デカルトの著書を数えるのみであるが、なかでもモンテーニュの名は、『パンセ』のなかでもっとも頻繁に言及されている（アウグスティヌスの 15 回をしのぎ 20 回）。『エセー』が『パンセ』に与えた影響の大きさははかりしれない。パスカル自身こう語る「モンテーニュのなかに見いだすもののすべてを、私はモンテーニュのなかではなく、私のなかに見いだす」（S568）。

このように、パスカル研究においてモンテーニュの思想との比較研究はきわめて重要な課題なのだが、奇妙なことに、これに体系的に取り組んだ研究は多くない。最重要の先行研究は今もなお前田陽一の前掲書（1949 年、新装版 1989 年）である。パスカルが実際に参照した『エセー』の刊本そのものを検証し、モンテーニュの思想が『パンセ』のどの箇所、どの用語に受けつがれているかを実証的に明らかにした不朽の偉業である。だが、前田の検証の対象は、『エセー』２巻 12 章「レーモン・スボンの弁護」を中心とする一部にとどまる。B. Croquette 前掲書は、影響の認められる語句をリストアップしただけの著作で、分析はほとんどなされていない。ほかに L. Brunschvicg 前掲書も古典的ではあるが、エッセー風の小著にすぎない。また、Laurent Thirouin, *Pascal ou le défaut de la méthode, Lecture des* Pensées *selon leur ordre*, 2015 は注目すべき研究で、申請者は大いに啓発を受けたが、こちらもパスカルの少数の断章についての解釈――それは精密で斬新な解釈である――を『エセー』の文章との関連で提示するにとどまっている。そこで申請

者は、パスカルとモンテーニュの影響関係という、きわめて重要で伝統的な研究課題に挑む。

まことに興味深いことに、モンテーニュからパスカルへの影響は、「継承」という直線的な形態をとることはまれで、むしろ「反発」の形で現れることが多い（この事実が両者の影響関係を見えにくくしている）。ほんの一例を挙げれば、たとえば、パスカルは、狩人が獲物を求めているつもりでも、実は狩りそのものを楽しんでいることを喝破し、そのさまに人間の空しさを認める。人間は「気晴らし」なしに生きられない、という（『パンセ』S168）。モンテーニュは逆に、獲物を得ることにしか狩猟の楽しみを見いださない性急な態度を戒める。享楽は目的に至る過程そのものにあると考えるからである（『エセー』３巻５章）。申請者は、このようなねじれた影響関係を、①死生観（信仰論）、②認識論、③政治論、④修辞論、⑤学問・知識論の５つの領域において詳しく検討する。

４．研究成果

上記二つの方向性に即して記す。

(1) パスカル人間学の文献学的研究

①『パンセ』翻訳を、全体の約 3 分の 2 まで進めた。

②論文「『パンセ』原稿と写本および校訂について:研究の現状」を発表した（『ガリア』58 号、大阪大学フランス語フランス文学会）。

③論文「パスカル における「見かけ」の批判」を発表した（『Correspondances 北村卓教授・岩根久教授・和田章男教授退職記念論文集』朝日出版社）。

(2) パスカルとモンテーニュの影響関係の研究

①白水社刊行の月刊誌『ふらんす』上で「寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門」という 12 回の小論を連載した（2017 年 4 月号～2018 年 3 月号）

②論文「モンテーニュの「気をそらすこと」とパスカルの「気晴らし」」を発表した（『ステラ』37 号、九州大学フランス語フランス文学研究会）。

③社会思想史学会編『社会思想史事典』に項目「懐疑主義」を執筆し、モンテーニュとパスカルについて言及した（丸善出版）。

④論文 「モンテーニュにおける「見かけ」の批判――パスカルとの対比において」を発表した（『ガリア』59 号）。

⑤パリ第三大学のアラン・カンティヨン教授が主宰する研究会 CEIPPREM にて、« La critique de l'apparence chez Pascal et chez Montaigne » と題する口頭発表を行った。

⑥Takeshi KUBOTA, *Montaigne lecteur de la Cite de Dieu d'Augustin*（Paris, Honore Champion, 2019）の書評（日仏両語）を『ロンサール研究』XXXII 号に寄稿した。

⑦共訳書ジャンニ・パガニーニ『懐疑主義と信仰――ボダンからヒュームまで』（知泉書館、2020 年 12 月）を刊行した。

⑧論文 « La critique de l'apparence chez Pascal » を発表した（Littera, n° 6, mars 2021）。

⑨論文 « La critique de l'apparence chez Montaigne : un parallele avec Pascal »（『ガリア』60 号、2021 年 3 月）を発表した。

(3) その他

①エレーヌ・ミションの論文「空しさ――聖書とその文学的変奏」の翻訳（望月ゆかと共訳、岩波書店『思想』2017 年 10 月号所収）を発表した。

②「ディドロ『サロン』抄訳 (3) 」（『大阪大学大学院文学研究科紀要』58 巻所収、2018 年 3 月）、「ディドロ『サロン』抄訳 (4)」」（『大阪大学大学院文学研究科紀要』59 巻所収、2019 年 3 月）、「ディドロ『サロン』抄訳 (5)」（『大阪大学大学院文学研究科紀要』60 巻所収、2020 年 3 月）を発表した。

③コリンヌ・アトランの論文「読むこと、書くこと、訳すこと」の翻訳（『ガリア』58 号所収、2019 年 3 月）を発表した。

④『フランス文学小事典 増補版』（共編、朝日出版社、2020 年 3 月）を刊行した。

⑤オード・フォーヴェル の論文「運命の女、魔性の女、倒錯の女――フランス医学文学史（1810~1960 年代）」の翻訳（堤崎暁と共訳、『ガリア』60 号、2021 年 3 月）を発表した。

⑥共著教科書『フランス語で読む哲学 22 選――モンテーニュからデリダまで』（朝日出版社、2021 年１月）を刊行した。

⑦「フランス近世の〈知脈〉」研究会の第３回例会（2017 年 8 月）、第４回例会（2018 年 8 月）、第５回例会（2019 年 8 月）、第６回例会（2020 年 9 月）、第７回例会（2021 年 2 月）を主宰し、それぞれ多数の参加者を集めた。

⑧Youtube 上に「モンテーニュ『エセー』入門」と題する 15 回分の講義（2020 年 4 月～7 月）を公開した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計28件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　23件）

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 XXXII
２．論文標題 書評：Takeshi KUBOTA, Montaigne lecteur de la Cite de Dieu d'Augustin, Paris, H. Champion, 2019	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ロンサール研究	６．最初と最後の頁 109-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 YAMAJO Hirotsugu	４．巻 XXXII
２．論文標題 Compte rendu de lecture : Takeshi KUBOTA, Montaigne lecteur de la Cite de Dieu d'Augustin, Paris, H. Champion, 2019	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ロンサール研究	６．最初と最後の頁 124-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 1
２．論文標題 パスカルにおける「見かけ」の批判	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Correspondances（コレスポンダンス）　北村卓教授・岩根久教授・和田章男教授退職記念論文集	６．最初と最後の頁 89-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 60
２．論文標題 ディドロ『サロン』　抄訳（５）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	６．最初と最後の頁 41-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 59
2．論文標題 モンテーニュにおける「見かけ」の批判――パスカルとの対比において	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ガリア	6．最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 37
2．論文標題 モンテーニュの「気をそらすこと」とパスカルの「気晴らし」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ステラ	6．最初と最後の頁 91-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 58
2．論文標題 『パンセ』原稿と写本および校訂について：研究の現状	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ガリア	6．最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣（訳）	4．巻 58
2．論文標題 コリンヌ・アトラン「読むこと、書くこと、訳すこと」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ガリア	6．最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 59
2．論文標題 ディドロ『サロン』 抄訳（4）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6．最初と最後の頁 125-171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣、望月ゆか（共訳）	4．巻 1122
2．論文標題 エレーヌ・ミション「空しさ――聖書とその文学的変奏」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 思想（岩波書店）	6．最初と最後の頁 129-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣（訳）	4．巻 58
2．論文標題 ディドロ『サロン』 抄訳（3）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6．最初と最後の頁 101-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 2017年4月号
2．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第１回「信仰と理性」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ふらんす（白水社）	6．最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 2017年5月号
２．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第２回「天使と獣」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ふらんす（白水社）	６．最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 2017年6月号
２．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第３回「夢とうつつ」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ふらんす（白水社）	６．最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 2017年7月号
２．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第４回「固定点」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ふらんす（白水社）	６．最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 2017年8月号
２．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第５回「〈圧政〉と精神の自由」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ふらんす（白水社）	６．最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 2017年9月号
２．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第６回「身体と人間の有限性」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ふらんす（白水社）	６．最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 2017年10月号
２．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第７回「習慣と直感」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ふらんす（白水社）	６．最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 2017年11月号
２．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第８回「狩りと獲物」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ふらんす（白水社）	６．最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山上浩嗣	４．巻 2017年12月号
２．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第９回「正義の不在」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ふらんす（白水社）	６．最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 2018年1月号
2．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第10回「政治と慈愛」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ふらんす（白水社）	6．最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 2018年2月号
2．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第11回「外見の美」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ふらんす（白水社）	6．最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 2018年3月号
2．論文標題 寝るまえ５分のパスカル『パンセ』入門：第12回（最終回）「一週間と全生涯」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ふらんす（白水社）	6．最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 2017年6月号
2．論文標題 書評：「フィリップ・セリエ著『聖書入門』支倉崇晴・支倉寿子訳、講談社選書メチエ、2016年」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ふらんす（白水社）	6．最初と最後の頁 70-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣	4．巻 2017年９月16日号
2．論文標題 書評：「保苅瑞穂著『モンテーニュの書斎―『エセー』を読む』（講談社、2017年）――『エセー』の魅力を、語りかけるような文体で説く」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 図書新聞	6．最初と最後の頁 4-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hirotsugu YAMAJO	4．巻 6
2．論文標題 La critique de l'apparence chez Pascal	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Littera, Revue de Langue et Litterature Francaises	6．最初と最後の頁 61 - 72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hirotsugu YAMAJO	4．巻 60
2．論文標題 La critique de l'apparence chez Montaigne : un parallele avec Pascal	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Gallia	6．最初と最後の頁 23 - 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山上浩嗣、堤崎暁（共訳）	4．巻 60
2．論文標題 オード・フォーヴェル「運命の女、魔性の女、倒錯の女：フランス医学文学史（1810-1960年代）」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ガリア	6．最初と最後の頁 89 - 103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　6件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 YAMAJO Hirotsugu
２．発表標題 La critique de l'apparence chez Pascal et chez Montaigne
３．学会等名 CEIPPREM, structure federative de recherche de la Sorbonne nouvelle - Paris 3（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 ラシーヌとモリエール――フランス古典演劇の楽しみ
３．学会等名 2019年度 ラスタ教養大学 言葉文化コース（伊丹ラスタホール）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 パスカルとモンテーニュにおける「見かけ」の批判
３．学会等名 「フランス近世の〈知脈〉」第５回研究会（大阪大学豊中キャンパス）
４．発表年 2019年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 フランス近代文学における文明の自己批判――モンテーニュ、ヴォルテール、ディドロ
３．学会等名 国際理解ゼミナール（宝塚南口会館）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 「今日は何もしなかった」――『エセー』に見るモンテーニュの脱力的生き方
３．学会等名 平成30年度ラスタ教養大学・言葉文化コース（伊丹ラスタホール）（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 『パンセ』原稿と写本および校訂について：研究の現状
３．学会等名 第83回大阪大学フランス語フランス文学会研究会（大阪大学豊中キャンパス）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 『パンセ』原稿と写本および校訂について：研究の現状
３．学会等名 「フランス近世の〈知脈〉」第４回研究会（大阪大学豊中キャンパス）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 パスカル『パンセ』入門――「考える葦」から「賭け」へ
３．学会等名 空気調和・衛生工学会近畿支部記念講演（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 パスカル『パンセ』入門――「考える葦」から「賭け」へ
３．学会等名 ラスタ教養大学・言葉文化コース（伊丹市立生涯学習センター）
４．発表年 2017年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 カミュ『ペスト』を読む
３．学会等名 令和2年度大阪府立三国丘高校「三丘(さんきゅう)セミナー」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 カミュ『ペスト』を読む
３．学会等名 2020年度 大阪大学文学部オープンキャンパス 模擬授業
４．発表年 2020年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 モンテーニュとパスカルの政治思想 第１部：正義の不在
３．学会等名 「フランス近世の〈知脈〉」第６回研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 現代社会を描くフランス映画３選――格差、ジェンダー、多文化共生
３．学会等名 2020阪大三丘会新入生歓迎会
４．発表年 2020年

１．発表者名 山上浩嗣
２．発表標題 フランス１７世紀の詩人ラ・フォンテーヌの寓話――動植物が演じる人間喜劇
３．学会等名 2020年度 ラスタ教養大学 言葉文化コース（招待講演）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計9件

１．著者名 北村卓教授・岩根久教授・和田章男教授退職記念論文集編集委員会	４．発行年 2020年
２．出版社 朝日出版社	５．総ページ数 812
３．書名 Correspondances（コレスポンダンス） 北村卓教授・岩根久教授・和田章男教授退職記念論文集	

１．著者名 岩根久・柏木隆雄・金崎春幸・北村卓・永瀬春男・春木仁孝・山上浩嗣・和田章男編	４．発行年 2020年
２．出版社 朝日出版社	５．総ページ数 400
３．書名 フランス文学小事典 増補版	

１．著者名 社会思想史学会（編）	４．発行年 2019年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 888（山上担当は92-93頁）
３．書名 社会思想史事典	

１．著者名 Ｍ・ルコント、中畑寛之、友谷知己、山上浩嗣	４．発行年 2019年
２．出版社 朝日出版社	５．総ページ数 60（山上担当は14-17，20-25，34-37頁）
３．書名 フランス語初級文法 ななつ星（Coccinelle : grammaire francaise elementaire）	

１．著者名 金澤忠信（監修）、松田浩則・山上浩嗣（共著）	４．発行年 2018年
２．出版社 公益財団法人 フランス語教育振興協会（APEF）[発売：駿河台出版社]	５．総ページ数 276（山上担当は223-273頁）
３．書名 2018年度版 仏検公式ガイドブック 傾向と対策+実施問題 準２級	

１．著者名 山上浩嗣、寺田寅彦（共著）	４．発行年 2017年
２．出版社 公益財団法人 フランス語教育振興協会（APEF）[発売：駿河台出版社]	５．総ページ数 218（山上担当は第１部 13-166頁）
３．書名 2017年度版 仏検公式ガイドブック 準１級	

１．著者名 津崎良典，久保田静香，武田裕紀，谷川雅子，逸見龍生，山上浩嗣，谷川多佳子（共訳）	４．発行年 2020年
２．出版社 知泉書館	５．総ページ数 270（山上担当は第二章29-45頁）
３．書名 ジャンニ・パガニーニ『懐疑主義と信仰 ボダンからヒュームまで』	

１．著者名 武田裕紀，三宅岳史，村松正隆，山上浩嗣，ほか	４．発行年 2021年
２．出版社 朝日出版社	５．総ページ数 70（山上担当は第９章22-23頁）
３．書名 フランス語で読む哲学22選 モンテーニュからデリダまで	

１．著者名 永井敦子，畠山達，黒岩卓，山上浩嗣ほか	４．発行年 2021年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 250（山上担当は26-27，32-33，36-37，151-154頁）
３．書名 フランス文学の楽しみかた ウェルギリウスからル・クレジオまで	

〔産業財産権〕

〔その他〕

reserchmap
https://researchmap.jp/read0208333
大阪大学研究者総覧
http://www.dma.jim.osaka-u.ac.jp/view?l=ja&u=3208
大阪大学文学研究科
http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/academics/graduate-course/g-futsubun
大阪大学フランス文学研究室
http://www.gallia.jp/wordpress/
大阪大学研究者総覧
http://www.dma.jim.osaka-u.ac.jp/view?l=ja&u=3208
Researchmap
https://researchmap.jp/read0208333/
大阪大学フランス文学研究室
http://www.gallia.jp/wordpress/
大阪大学研究者総覧
http://www.dma.jim.osaka-u.ac.jp/view?l=ja&u=3208
Researchmap
https://researchmap.jp/read0208333/
大阪大学フランス文学研究室
http://www.gallia.jp/wordpress/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スイス	Universite de Lausanne	Editions Droz		
フランス	Sorbonne Universite	Universite Sorbonne nouvelle - Paris III		